

沼津市新中間処理施設整備基本計画検討委員会議事録（第3回）

開催日時

平成26年12月2日（火）午後1時30分から午後2時45分まで

開催場所

沼津市民文化センター 第2練習室

議事事項

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 課題の検討
 - ・施設配置に関する検討
 - ・余熱利用の検討
- (3) その他

出席委員（14人）

欠席委員（1人）

沼津市出席者（9人）

清水町出席者（3人）

【前回議事録について】

前回議事録について確認を行い、委員会の承認を得た。

【主な質疑】

なし。

【課題の検討（施設配置に関する検討）】

事務局から施設配置に関する検討内容について説明した。

【主な質疑】

○委員

煙突の高さは59mで考えているとのことだが、以前視察で伺った川崎市王禅寺の施設では住民へのフォローが細かく、住宅や学校等が密集している地域のため、白煙防止装置をつけた方がいいだろうとのことをつけていた。住民からの評判もいいと聞いている。

沼津市においても、白煙防止は、煙を見えなくするだけであって無害化するものではないということを、1度や2度の説明では周辺住民の方々に理解してもらえないであろうことや、施設稼働後に後から追加することは困難であることから、周辺住民の安心のためにつけた方がいいのではないか。

○事務局

白煙防止装置の仕組みは熱を加えて水蒸気を温めることにより本来出ている水蒸気を見えなくするものである。そのためには本来発電等に利用するエネルギーを消費するため、発電量などが低下することとなる。

白煙防止装置は視覚的効果はあるが有害物質の希釈効果はなく、エネルギーを効率的に利用するという観点からは不要であると考える。

環境省ではこれらの装置を設けず、エネルギーを効率的に利用することを推奨しており、沼津市においても設けない方向で考えている。

○委員長

小学校などで十分な環境教育を実施することにより正しい知識をつけてもらう事が重要だと考える。最近の傾向としては設けない傾向である。

○委員

白煙防止装置を設けることによりコストはどれくらい上がるのか。

○委員長

コストというか、効率に影響があると聞いているが、いかがだろうか。

○事務局

手元に正確な数字がありませんが、環境省の研究結果等をまとめた資料に1%程度※エネルギー回収効率が下がるという記載を見た覚えがある。

(※編集注：後日確認したところ、0.4%発電効率が下がるとの資料がありました。)

○委員

煙突の高さは59mで考えているとのことだが、気流調査などの環境影響調査の進捗状況はどうか。

○事務局

生活環境影響調査の結果は、県へ施設の設置届け出時に提出する必要があるため、昨年度実施した。

大気については四季（春、夏、秋、冬）の調査が必要とされていることから、昨年秋から今年の夏まで4回調査を実施し、結果は環境基準を満たしていた。

気流についても四季、調査を行い、夏と冬には上層気象調査も行ったが特段問題はなかった。今後は59mの煙突で排ガスが出た時にどういう影響が出るのか予測する。

【課題の検討（余熱利用の検討）】

事務局から余熱利用に関する検討内容について説明した。

【主な質疑】

○委員

市として温水プールはかかせない施設であるとの説明があったが、本当に必要な施設か検討していただきたい。

平成24年度の行政改革推進委員会では今後の公共施設の在り方、施設全体の方向性について話し合われており、現在及び将来の必要性、維持管理費用、耐用年数、将来の費用負担などを明らかにして選別するべきだと言われている。

その際千本プラザの浴室の維持も問題になっており、こうした施設が老人保健施設として必要であれば、余熱利用として組み合わせることなどを考えていただきたい。

現在の温水プールの利用状況からみて、温水プールの必要性をどのように考えるか、沼津市の公共施設として適切かどうかを考えていただく必要があると思う。

○事務局

温水プールは、配布資料のとおり1日200人、年間約7万人程度の利用があり、一定の利用があると判断している。

また、温水プールは健康増進という側面があり、今後より一層求められる機能であり、必要な施設と考えている。

余熱を利用するために整備するのではなく、市として必要であるから整備するものである。

コストについてはできる限り縮減を図る考えで取り組んでいく。

○委員

温水プールは一定の利用があり必要であるとのことだが、年間約7万人というのは延べ人数であるため、同じ人間が何度も利用している可能性が高いと考える。

体育施設を新しくしようという検討もされている状況で、温水プールは熱効率や運用面などから決まったものだと思うが、ただ、熱利用施設としてプールを選択したということではなく、市の関係他部局と相談した上で整備する必要があると考える。

○事務局

温水プールの整備については全庁的な取り組みとして、単に余熱利用としての側面から結論を出すというのではなく引き続き他部局と連絡調整を図っていく。

体育施設を整備するにあたっては、駐車場の整備など色々と求められる機能もあるため、そのような観点や熱効率などを総合的に勘案して焼却施設の隣接地に温水プールを整備する方針を出している。

○委員長

温水プールはスポーツ振興や保健衛生施設等とも関係してくるため、それらと相談の上で進めているということと理解した。

○事務局

年間7万人の利用は、毎日同じ人間が繰り返し利用しているからではないかとの指摘があったが、あくまでもプールを利用した健康増進という目標を持って、今後啓発等によって利用者を増やすことも含めて考えていきたい。

○委員

資料②、表4で他都市の余熱利用施設の事例があるが、総余熱利用量の値がおかしい箇所や施設規模や発電出力の値が私が調査した値と一部異なる箇所が見られる。

○事務局

精査して後日差し替えさせていただく。

○委員

余熱は全て発電に利用し、災害や環境について学習できる地震教室を併設した環境プラザを整備すると見学者をかなり見込めるのではないかと。環境学習についてはどう考えているのか。

○事務局

計画施設は、基本構想において単にごみ処理をするだけではなく、3Rに資する施設として啓発のための利用もできる市民の皆様が開かれた施設とすることとしている。今後、他都市事例を参考にごみの啓発の機能も取り入れた施設とする事を考えている。

○委員

余熱利用施設への熱供給方法として温水による供給とする場合余熱利用施設側においてボイラは不要であるとの説明があったが、バックアップボイラは必要なのではないか。

また、発電出力という場合には単位はkWhではなく、kWとした方がよい。

余熱利用を全部電気にしたらどうかといった意見もあったが、発電においても、熱は必ず捨てなければならない分が出てくるため、先ほど出てきた水蒸気の問題と同様正しく理解していただくことが必要と考える。

○事務局

発電出力はhを削除し、2,750kWとする。

バックアップボイラについては、焼却施設が止まっている時は、温水プールも休止させるなどして、なるべくコスト削減のために過剰な設備は設けないよう検討していきたいと考えている。

○委員

白煙防止装置の設置の有無によってエネルギー回収効率が下がるとのことだが、交付金がもらえるかどうかに影響があるのか。そういった検証は必要であると考えている。

【委員長総括】

○委員長

白煙防止装置についてはきちんとした説明を今後もしていただくとともに、設置に伴うエネルギー回収効率の低下がどの程度であるのか示してほしいとの事だった。

温水プールについては、必要性、コスト面を考えた上で沼津市として本当に必要な施設であるならば他部局と相談の上計画してほしいとの意見があり、他部局と連絡調整を図って進めているとの回答であった。

資料2の表4については、精査して提示いただく。

また、環境施設は教育上も実のある施設としてほしいとの意見があり、他都市事例等よりプラザ機能や防災拠点等について踏まえうえで計画を練ってほしいとの意見があった。

【その他】

次回委員会の開催日は1月下旬を予定し、具体的な日程は後日連絡する。

議題は事業範囲の検討を行いたいと考えている。焼却施設、リサイクル施設及び余熱利用施設の発注について全て一括で発注するのか、または個別で発注するのかなどをその範囲とそれぞれの場合のリスク等について検討を行いたいと考えている。

本日の議事録は前回同様次回委員会前に送付させていただく。

以 上